



旧武生市内では、13日にお墓にお参りして、ご先祖をお迎えします

梅雨空が続いていますが、皆様にはいかがお過ごしでしょうか。早いもので、まもなく、新盆がやってまいります。お盆といえば昔から、ご先祖の御霊をお迎えするという日本人の心に深く根づ

縁親

〒915-0823
福井県越前市本町10-2
親縁山 大寶寺
TEL/FAX (0778) 22-1682

お墓参り、新盆棚経のご案内

7月13日 武生地区墓参り
14日 武生地区棚経
15日 鯖江・福井棚経

いた習慣です。大寶寺では、旧武生市内や鯖江、福井など町うちは新盆の7月に、他の地区は8月に棚経におうかがいします。それぞれのお宅のお仏壇に、季節の野菜や果物、お菓子、故人の好物などをお供えしてください。また、武生市内では盆灯籠を飾るお宅もありますが、ご家庭に代々続く習慣があれば、それに従って飾りつけをしてください。なお、仏壇のお供えなどを清めるために水を張った小皿に草木の小枝を添えて置いて下さい。

13日には武生地区の檀信徒の方は寺の墓地で墓地において武生地区の檀信徒のご先祖をお招きするためのお勤めをいたします。本堂南側の縁側に灯籠を出しておきますので前もってご準備下さい。

新盆棚経は14日に武生地区を、15日には鯖江、福井、坂井地区をまわります。住職もしくは若のいづれかがお伺いします。別紙にておおよその時間をお知らせします。時間の変更などご希望でしたらご連絡下さい。なにぶん限られた時間で多くのお宅でお勤めをいたしますので、ご希望にそえないこともあります。その際はご容赦ください。

なお、昨年まで実施されてきました日野川での灯籠流しは今年では実施されなないようです。伝統の風物詩が消えることは大変寂しいことです。

伊勢太神楽の奉納の舞



24日はあいにくの雨になりましたが、大寶寺の本堂の中で午後1時から、たっぷりと神楽の舞を奉納して頂きました。雨の中をご参詣頂いた皆様、また、山本源太夫一座のみなさまほんとうにありがとうございました。



堂内で獅子舞や様々な芸を披露してもらいました。大空の下と勝手が違って、ちよつとやりにくそうな場面も。

永代施餓鬼法要

6月23日、24日

今年の永代施餓鬼法要を6月の23日、24日の両日、大寶寺の本堂にて勤めました。23日はこの時期にしては気温も高くなり好天に恵まりましたが、24日にはあいにくの土砂降りに見舞われ、恒例のお神楽の舞は本堂内での実施となりました。

23日には五郎丸、燧、湯尾、中居、北村、村国、武生、八幡などの地区、24日には具谷、鯖江、森行、檜津、粟田部、味真野、文室、中居、福井などの地区の霊名を読み上げ、ご回向をいたしました。今年は大寶寺の若が維那をつとめました。



堂内中央に設置された施餓鬼壇。中央には大寶寺の檀信徒各家の名前を記した戒名板が置かれています。

両日とも参詣人々が途切れることなく、堂内中央に設置されたの施餓鬼壇にお焼香をしていただきました。
*維那 鐘や木魚を鳴らして、法要を導く進行役。

トピックス

湯尾浄土寺にて法然上人八百年

お待ち受け大遠忌 6月17日

湯尾の浄土寺にて、元祖法然上人八百年大遠忌お待ち受け法要が6月17日、梅雨時期にはまずまずの天候に恵まれ大寶寺の老僧の導師のもと、住職と若も参列して法要が厳かに執り行われました。



法要の後、浄土寺の本堂の中で和やかに歓談する浄土寺の檀信徒の皆さん

ご案内

浄青別時念仏会 (お別時)

7月12日(木) 午後7時より

福井教区浄土宗仏教青年会(浄青)では毎月県内各地の寺院にてお別時を勤めています。お別時とは、「日時を定めて、身体やこころを清浄にして念仏行に励む意識をもち、ひたすら阿弥陀さまのみ名を称えてお念仏によつて心をきよめよう」という行事です。

今月は大寶寺の本堂にて前記の日時で浄青のお別時が催されます。参加費用は無料で、特に申し込みの必要はありません。普段のまま、大寶寺の本堂にご参集下さい。

第37回「浄土宗子供の集い」

7月30・31日

福井教区浄土宗仏教青年会および福井教区浄土宗児童教化連盟では毎年、夏休みに「子供の集い」を開催しています。今年の会場は大寶寺です。

対象は原則として小学校3年生から6年生のお子様、また希望の保護者の方です。参加費用は二千円、兄弟姉妹の参加の場合は二人目からは千円です。大寶寺の檀家以外のお子様も、参加頂けます。

手を合わせ、感謝の心でお拝みあうという仏さまの教えを子供さんにお伝えする絶好の機会です。申し込みは別紙のご案内にてお願いします。

濁中蓮華

濁った世間に咲く蓮の花の意

弥陀三尊の心

北海道加ト吉が製造したCOOP牛肉コロッセの豚肉使用から発覚したミートホープ社の牛肉偽装事件が世間を騒がせている。

単に豚肉を牛肉と偽っただけではなく、色の悪い肉に血液を混ぜて色を変える。腐りかけて悪臭を放っている肉を消毒した上で細切りにして少しずつ混ぜる。鳥インフルエンザが流行した際に値段が下がった輸入鴨肉を大量に購入して混ぜる。製造日の改ざんをする。ミンチにパンや水を混ぜて増量する。雨水で冷凍肉を解凍するなど、あの手この手で、コストを下げる工夫をしていたようだ。

また、品質管理を徹底しているという偽りの資料を示したり、保険を不正受給して自らの損害が少なくなる細工をした上で、苦情には速やかに返品に応じるなどして、取引先の信用を得ていたようだ。

こうしてみると、ミートホープの田中社長は、やったことの善し悪し、またあまりに独裁的であったことをさておけば、相当に知恵も働き、行動力もある人物のように思われる。昨年「攪拌機付きひき肉製造器の考案」などの業績に対し文部科学省が北海道庁の推薦を受け「創意工夫功労者賞」を授与したぐらいなのだから、あながち的はずれの人物評ではなからう。

ところで、大寶寺の本尊は、阿弥陀如来である。その左側には観音菩薩、また、右側には勢至菩薩が安置されている。阿弥陀さまは

寿命、すなわち「命」を表す仏さまである。観音さまは慈悲を表している。慈悲ということばは、現代ではあまり使われないが、おもいやりや、愛情などの「やさしい心」のことだ。勢至菩薩さまは知恵を表している。知恵とは単にものごとを良く知っているだけではなく、ものごとを正しくとらえ、それに適切に対処する能力のことだ。知恵とは、いわば「かしこさ」のことと言えよう。

人が幸せに生きるためには、阿弥陀さまに頂いた「命」に感謝して、「やさしく」また「かしく」生きることを心がけることが大切だ、ということをご先祖は、弥陀三尊仏という姿のなかに託したのではなからうか。

悪知恵を働かすことに腐心した田中社長に欠けていたのは、消費者に安全な食品を提供するという責任感、法律や条令を遵守する精神などいろいろあるが、それ以上に「命」を尊び敬う心。また、人々を思いやる「やさしさ」。また、自分を含め、皆んなが幸せになるように知恵を働かす「かしこさ」。つまり弥陀三尊仏に表された心が欠けていたのではないか。かりに彼に仏、また、仏教を尊ぶ心が備わっていれば、今とはずいぶん違った人物になつていたのではなからうか。

合掌



大寶寺の弥陀三尊仏

晋山式、大遠忌待受法要報告会

6月24日

大寶寺の永代施餓鬼会法要が終了した後、午後5時から、大寶寺の庫裏にて大寶寺第26世晋山式、ならびに元祖法然上人八百年大遠忌お待ち受け法要の報告会が、34名の参加を得て開催されました。

藤井洋造さんの司会のもと総代、住職の挨拶、会計報告がなされ、その後、懇談の場が持たれました。